

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

「稼ぐ・削る・防ぐ」をやるのが会社経営

川村隆（日立製作所元会長・7873億円の巨額赤字後社長に就任。読書を中心とした「一俗六仙」生活を送る）

- 「稼ぐ、削る、防ぐ」をやっていくのが会社経営だ。日立全体が沈まないように私は悪いグループ会社をいくつも潰した。ただ、1万人が働く工場がなくなると、その町のタクシー運転手も弁当屋も全部潰れてしまう。それをやったほうがいいのかそうとう悩んだ。
- 論語には「夫子（孔子のこと）の道は忠恕のみ」という一節がある。「忠」とは、これをやるべきだと思ったことに全力投球すべしという意味。「恕」というのは思いやりのことだ。孔子は1つだけやらなければいけないものは何かと弟子に問われ、「其れ恕か」と答えた。忠は言わなかった。
- 会社の諸先輩方も怒鳴り込んできたが、孔子の教えの「恕」に逆らって、日立の新しい仕事をつくるためにその会社は潰した。孔子が言う「忠」は、日立の創業理念の1つ「積極進取の開拓者精神」に通じる。これが廃れて当時の日立は危機に陥ったし、今の日本企業は世界で埋没している。

（参考：「週刊東洋経済」2022年12月10日号）

ワンポイント経営アドバイス

「ナンバーワン」が目標ではなくビジョンの実現だ

大橋 洋治（ANAホールディングス相談役）

- 自己制御力とは、自分たちにとってどう行動するのがベストなのかを考え、ぶれずにその考えを貫ける能力だ。単に自分がやりたいことに対する思いを抑える力、とってしまうかもしれないがそうではない。組織論に当てはめれば、自分たちの描いたあるべき姿、ビジョンをぶれずに実現することこそがリーダーの抱くべき理想だ。
- 「ナンバーワン」を目指すことは組織を動かす上で、周囲を巻き込みやすい目標設定だが、これが目的となってはならない。ナンバーワンになってもビジョンを実現できなければ意味がない。ここに向かって組織を引っ張るのがトップの役目である。どんな批判を受けても相手を説得し、最終目標をずらさない。これがリーダーに必要な心構えだろう。

（参考：「日経ビジネス」2023年1月9日号）

人事・労務について

一つのことを続けることで開ける世界

- 「人生二度なし」…これは、森信三の表看板ともいえる言葉で、分かっているつもりになってしまいがちなところもあります。しかし、森信三はこの大切な真理を「いつの間にやら忘れ去って、この自分の一生が、まるでいつまでも無限に続くものであるかに考えて、つかうかど過ぎやすい」と警鐘を鳴らしています。
- 「坑道を切り開く意志」…森信三は、お互い人間として最も大切なことは、梯子段を一段でも上に登るといふことにあるのではなくて、そのどこか一ヶ所に踏みとどまって、己が力の限りハンマーをふるって、現実の人生そのものの中に埋もれている無量の鉱石を発掘することではなくてはならない」と説いています。我々は名誉や地位を求めて上へ上へ登りたがるけれども、そんなことに目を奪われてはいけません。

（参考：「致知」2023年3月号）

古典に学ぶ

ぶれない自分をつくるためにはどうするか

- すべてを受け入れ、生きながらにして悟りを開くことを目指す空海の教えは、現代に生きる私たちも大いに活用できます。空海は、私たちを悩ませる煩惱さえも否定しません。彼は、「煩惱は、よりよく生きるための糧といえる」と説いています。
- その煩惱を受け入れながら、ぶれない自分をつくるためには、どうすればいいのでしょうか。それは、「目標を設定すること」です。

（参考：名取芳彦監修「空海 道を照らす 言葉」：河出書房新社）